

生産性と企業経営

梶 浦 昭 友

産業研究所では、2009年4月以来、福井幸男元所長のもとで関西生産性本部と生産性運動の役割と意義に関する研究を行う方向で調整を進め、同年11月に、日本生産性本部から「生産性向上と雇用問題」の委託研究を受けた。その成果として2010年12月に、梶浦昭友、西村智、根岸紳、福井幸男編著『生産性向上と雇用問題—生産性三原則へのアプローチ』関西学院大学出版会を上梓した。委託研究は同書に結実したが、基本的に理論家による研究に限定されていたので、その後、この問題についてさらに産学連携で実践的な視点を加えることを想定し、かつ研究の過程での成果を授業にも還元することを意図して、2012年4月から3年間の予定で産業研究所の研究プロジェクトの1つとして「生産性の現代的意義」をテーマとするプロジェクト（代表者：梶浦昭友）を立ち上げた。

このプロジェクトでは、「生産性が未来を拓く」と題して、2012年度秋学期と2013年度秋学期に「商学部共通特論・経済学部経済学トピックス」での授業還元を行った。14回の講義中、関学教員は5名（2012年度は4名）だけで、多くの部分を関西生産性本部のご協力による同本部および実業界等の方々に担当いただき、同時に研究プロジェクトの研究員をそのメンバーで構成している。外部研究員の方々には、日々の業務の中、特別に講義のための十全なご準備をいただき、企業等の現場での事例等、日頃、学生諸君が接しえない題材について、新たな着眼点をえられる講義をしていただいている。授業還元は2014年度春学期にも予定されており、それらを通じた研究活動は2014年度も引き続き行われ、研究プロジェクトの最終的な成果は2015年度中に書物として刊行することになる。

そこで、この段階で、研究プロジェクトの進行上、運営に関して重要な役割を果たしていただき、産学の産の部分の企画にご協力いただいた関西生産性本部の2名の方々と学内研究員2名で、中間的な論考をまとめることを企画した。とくに関西における生産性運動と生産性の向上に向けた各種活動を主導してきた関西生産性本部の辻本健二特別顧問と坂東学人材開発部長には、日々の多様な業務の中でご執筆いただき、心から感謝申し上げるとともに、引き続きプロジェクトの産学連携での運営にご協力いただければ幸いです。